

**編集後記：**毎年、夏休みには北海道に帰省していますが、今年は前線や台風11号・9号の上陸の時期と重なりました。実家周辺では前線の影響で大雨となり、降り始めの頃はちょうど外出から帰る途中でした。山間の市街地を車で走っていましたが、山のほうから雨水がものすごい勢いで流れ、排水が追いつかずに道路があちこちで冠水し、消防が迂回を指示している箇所もありました。どうにか帰宅した実家では庭が池に変わっており、市内の一部地域には河川の増水のため避難勧告が出されました。

今回のような場合、どういった対策が必要かを振り返ってみました。運転中に急な強雨に遭遇した場合、平野の市街地ではアンダーパスや地下道を避ける（場所については大抵 web ページで確認できるようです）、河川を離れて通行するなどの対策が考えられます。一方で、山間の市街地では山から雨水が流れてくるまでの時間が短く、冠水まではあっという間ということもあり得ます。一刻も早く帰宅することが最善ですが、冠水箇所が多い場合は、降雨が弱まって水が引くまで安全なところで待機することも大切かと思いま

した。もし山の斜面に近い場合は、ハザードマップで土砂災害警戒区域を確認することも必要と思います。

また、今回避難勧告の対象となった河川は、水防法でいう「水位周知河川」であり、流域面積が小さいために洪水予報を行う時間的余裕が無い河川です。水位周知河川は「特別警戒水位」が定められており、この水位を上回ったときに通知・周知されます。このような河川は水位予測が困難なため、強雨・増水時には水位を監視することが大切になります。このような際は、天気予報に加えて河川の水位の状況（国土交通省の web サイト「川の防災情報」）を確認するよう心がけておくべきです。また長年住んでいた地元でも、大きな河川以外はどこをどう流れて危険かどうかよくわからない川もあります。普段からハザードマップで浸水想定域を確認することも大切かと思えます。

以上は当たり前のようなことですが、とっさの場合に適切に動けるよう、たまには頭の中を整理して確認しておくが大切なことを改めて感じました。

（小野耕介）